



漆のよさを伝えたい

漆塗り職人

わたなべ
渡邊

よしひさ
嘉久さん(殿町)

撮影場所：渡邊仏壇店(ミツ矢元町)

塗りだけでも20工程以上という仏壇の漆塗り。上塗りや金箔貼りなど、大きな産地では複数の職人が分担する作業を、渡邊さんは一人でこなします。「全ての工程を覚えるには10年以上。でも、年数ではなくどこまで良い物を作るかという職人の想い次第」。大正13年創業の仏壇店を継ぐ3代目として、自らが目指す職人のあるべき姿をそう語ります。

銀行を退職して職人を志したのは25歳。漆塗りのかたわら作家として漆芸作品を創作する父親の姿を見て、モノづくりの面白さを感じたのがきっかけです。父親のもとで修行し、腕を磨く日々が続きました。

しかし、10年前に父親が他界。折しも曳山まつりの山車の修理を引き受けたと

きでもあり、「当時はとにかく必死。父親の存在の大きさに気づいた」と振り返ります。

仏壇や漆器などの需要が激減する中、業界の先行きに危機感を持ち、作家や職人が発信できる場として7年前にギャラリーを開設。「物を作っても売れる時代じゃない。伝えていく基盤が必要だと思ったんです」。

そんな挑戦が続くなか、今度は自身が大腸ガンに。働き方や生き方を考える岐路に立ち、新しい価値を創造して若者に伝えていくことを決意します。「守るだけでは伝承はできない。まずは漆を身近に感じてもらいたい」。度重なる大きな壁が渡邊さんを奮い立たせます。

その後、かつて長浜で作られていた

「常喜碗」を復刻。洋食にも合わせやすい漆器の開発のほか、「伝える力」をつけるために写真や文章づくり、デザインにもチャレンジし、ブログやSNSでの発信にも力を入れています。あれこれやりすぎだと笑う渡邊さんですが、目的はたった一つ。「漆のよさを世に伝えること」。

漆塗りはひたすら忍耐の仕事で、未だかつて「会心の塗り」はないという渡邊さん。「完成だと思ったら進歩は止まる。特別な才能はないが、誰もができることを誰もやらないくらいやり続けようと思っているんです」と語るその目には、浜仏壇や曳山文化の伝統の一端を担う自負と、それを伝承していく決意が宿ります。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。
笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。
掲載を希望する人は市民広報課(☎65-6504)まで申込みください。



公園大好き円香ちゃん。
歩けるようになって、楽しくなってきたね。
早くお姉ちゃんと走り回れるといいね！

東野

まどか
円香ちゃん(平成28年4月生まれ)
(勝町)

清水

みこと
美琴ちゃん(平成29年2月生まれ)
(小堀町)



毎日いろんなことができるようになって
パパママも嬉しいです♡
これからも成長を楽しみにしてるよ！

まちの
人口

平成29年8月1日現在	人口 119,520人	男 58,480人	女 61,040人	世帯数 45,258世帯
平成29年7月中の異動	転入 260人	転出 276人	出生 70人	死亡 93人 婚姻 47件



植物油インキで印刷しています。再生紙を使用しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けすることを原則としていますが、市民交流センターや図書館、まちづくりセンターなどの公共施設にも置いています。市ホームページ、スマホからもご覧いただけます。点字広報、声の広報をご希望の人は市民広報課まで。